

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	安心していきいき暮らせる	施策の成果指標又はムトス指標	要介護・要支援認定者の出現率
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	低所得な独居高齢者等の栄養の確保並びに、身体に不調をきたしたものに對し関係機関に連絡をとるなど独居高齢者の安否の確保に貢献できた。		
	後期に向けた課題	利用者増大の為にPR並びに協力事業所の拡大を図っていく		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしましたか	4年間の振り返り	配食サービス時に行われる声かけの安否確認により、定期的に高齢者の見守りが実施でき在宅での生活を続けることができる。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫をしましたか	4年間の振り返り	配食サービス提供エリアの道路状況等を把握し、効率的な配食ルートを設定することで、コスト削減に努めている。		
	後期に向けた課題	該当事業者の対象エリア外からの発注に對するための事業者間の連携。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	配食サービスの提供を通して、独居高齢者等の食の支援を行うとともに安否確認もできる事業としてこれからも継続して実施することが必要。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①配食サービス提供事業者による高齢者の在宅生活継続のための支援。 ②行政は、支援が必要な高齢者を把握し、協力事業者の拡大に努める。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	低所得な独居高齢者等の栄養の確保並びに、身体に不調をきたした者に對し関係機関に連絡をとるなど独居高齢者の安否の確保に貢献できた。		
	後期に向けた課題	利用者増を図る為、PR並びに協力事業所の拡大を図っていく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要があるかどうか	ない	対象や意図を修正する必要がありますかどうか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますかどうか	ない
-----------------------	----	-----------------------	----	--------------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	------------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------